

対象学生	授 業 科 目 名	担 当 者	必修・選択	授業形態	単位数	開講時期		
こども学科 1年次	幼児の音楽あそび	神野 和美	必修 (免許資格必修)	演習	2単位	前期		
授 業 計 画								
教育者として乳幼児に関わる時に最も大事な役割は、人間育成の手助けである。身体的言語的発達がまだ未熟な子どもに対し芸術、特に音楽を通しての教育は大変重要でかつ一番子どもにとって身近な媒体である。そのはじめの一歩として、自分自身の声と身体(身近な道具も)を使って乳幼児に寄り添えるわらべうたをしっかりと身につける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	オリエンテーション 乳幼児の音楽(わらべうた)教育についての授業内容について	教科書の目次を確認しておく	授業内容の確認	9	幼児(減り増える遊び)	課題の予習	曲分析シート作成
	2	乳児の遊び歌①	課題の予習	曲分析シート作成	10	乳児の遊ばせ遊び(顔・頭・指)	課題の予習	曲分析シート作成
	3	幼児(しぐさ遊び)	課題の予習	曲分析シート作成	11	幼児(隊伍の遊び)	課題の予習	曲分析シート作成
	4	乳児の遊び歌②	課題の予習	曲分析シート作成	12	こもりうた	課題の予習	曲分析シート作成
	5	幼児(鬼決め・数え歌)	課題の予習	曲分析シート作成	13	幼児(道具を使う遊び)	道具の準備	授業の復習
	6	乳児の遊ばせ遊び(足・ひざ)	課題の予習	曲分析シート作成	14	乳児の道具を使う遊び	道具の準備	授業の復習
	7	幼児(役交代の遊び)	課題の予習	曲分析シート作成	15	まとめ	実技試験のための準備	曲分析シートのまとめ試験の準備
到達目標	8	乳児の遊ばせ遊び(手を使った遊び)	課題の予習	曲分析シート作成				
0歳から6歳までの発達に沿って必要な歌やしぐさを習得する。幼児の集団遊びの種類や性質を整理し、色んな場面で遊びこなせる力をつける。子どもの身近な遊具や道具を使っても遊べるよう経験を積む。								
教科書・テキスト等	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント	履修に関する留意事項			
わらべうた わたしたちの音楽 一保育園・幼稚園の実践(明治図書)		平常点(態度・行動観察)	30	授業の参加態度、予習復習の準備				
		レポート(シート)	20	課題の取り組み、毎回の積み重ね				
		期末テスト	50	実技試験				

対象学生	授 業 科 目 名	担 当 者	必修・選択	授業形態	単位数	開講時期		
こども学科 1年次	幼児の音楽指導法	神野 和美	必修 (免許資格必修)	演習	2単位	前期		
授 業 計 画								
「乳幼児の音楽あそび」で習得するたくさんの歌を、具体的にどのような場面で活かせるのかという場面をイメージしたり、またどのように組み立てて表現していくことで子どもとの芸術を通じた教育が活かされるのかを学んでいく。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	オリエンテーション 乳幼児の音楽(わらべうた)教育についての授業内容について	教科書の目次を確認しておく	授業内容の確認	9	幼児の遊びの中での音楽授業の組み立て②	課題の予習	復習
	2	なぜわらべうたか	課題の予習	復習	10	乳児の計画	課題の予習	復習
	3	わらべうたの力	課題の予習	復習	11	幼児の授業の実践案作り①	今までの復習	シート記入
	4	子どもの身体発達	特になし	シートの記入	12	うたうこと	特になし	復習
	5	幼児の遊び	課題の予習	復習	13	幼児の授業の実践案作り②	前回の復習	復習
	6	乳児の生活	特になし	授業の復習	14	実践練習	実践案確認	実践練習の振り返り
	7	幼児の遊びの中での音楽授業の組み立て①	課題の予習	復習	15	これまでの総まとめ	実技試験のための準備	これまでの復習と試験の準備
到達目標	8	乳児の月齢による関わり方	4と6回めの復習	授業の復習				
乳児では、子どもの発達の順次性を理解した上で最適な遊び歌を選べる力をつけ、色んな場面での応用力が身につくようになる。幼児では複数の遊びや歌を一つの実践として組み立てる(計画を立てる)ことができるようになる。								
教科書・テキスト等	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント	履修に関する留意事項			
わらべうた わたしたちの音楽 一保育園・幼稚園の実践(明治図書)		平常点(態度・行動観察)	30	授業の参加態度・予習復習の準備				
		レポート(シート)	20	課題の取り組み				
		期末テスト	50	筆記課題と面接				

対象学生	科目名	担当者	担当形態	必修・選択	単位数	開講時期		
こども学科 2年次	ピアノⅢ	隈部文・友永和恵・大石陽子	クラス分け	保育士・幼稚園教諭免許取得のための必修	1単位	前期		
科目		領域および保育内容の指導に関する科目						
施行規則に定める科目区分又は事項等		領域に関する専門的事項						
授業のテーマ 及び到達目標	授業計画							
	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
<p>幼児の感性の発達に役立つ、こどもに寄り添う音楽を探求する。</p> <p>3、4年次の保育実習、幼稚園教育実習、施設実習を視野に入れて、課題曲を確実に暗譜する。幼児を前にしている想定で演奏することを習慣づける。</p>	1	オリエンテーション 童謡の意義の振り返り 基本姿勢、タッチと音色	シラバスを読む 明るく元気な音を身につける	レッスンカードの使い方確認 毎週の練習計画を立てる	9	歌詞と情景とフレーズ 季節の歌	4番5番等歌詞の長い童謡曲はフレーズ感を併せて練習する	簡易版がない伴奏の曲調に合わせた編曲のしかたを身につける
	2	二長調のコードとベース 園生活の歌・登園	ハ長調と二長調のコードを練習しておく	ベース伴奏も並行して使えるようにする	10	ハ長調のコードとベース 生活・行事の歌	園以外で耳にする曲や歌は分析的に譜読みする	ベースの表現の重要性を意識する。右手の練習法を工夫する
	3	息づかいとフレーズ 春の抒情的な歌	歌詞読みをして、生活の歌との違いを感じる	情景を表す音楽的表現を身につける	11	前奏を効果的に用いる よく知られた童謡	フレーズの区切りと歌詞の関係に気をつけて譜を読み込む	スタッカートの切り方で表現が変わることを学ぶ
	4	問いと答え 抒情的対話の歌詞	語りかける表現、プレスの位置とピアノの区切り方を考える	親子・愛情・絆に関する童謡や歌をまとめる	12	マルカートとレガート 音の高さと音色	前奏に歌の旋律やリズムが含まれない曲の練習法を考える	自己の表現方針・方法を決め編曲し仕上げる
<p>授業の概要</p> <p>ピアノⅠ、Ⅱで学修したピアノ実技の基礎を基に、新たな課題曲をもって、幼児の感性の発達に役に立つ音楽的表現を深めるための個人レッスンを行う。</p>	5	付点リズムの連続と拍感 生活の歌	生き生きとした付点リズムの旋律を自由に弾けるようにする	アクセントにより表現が変わることを感じ身につける	13	変拍子に慣れる 生き物の歌	拍子が変わる曲の拍どりをしっかり理解して譜読みをする	特色を持った歌は園児に与える影響を考え表現する
6	ピアノの基礎訓練 主旋律と伴奏型のバランス	片手練習、部分練習で技術を上げ、フレーズ・形式を調べる	フレーズ感、呼吸を意識し、表現に繋げるようにする	14	同名の曲・複数のペンネーム 夏の歌	歌詞・作曲者を丁寧に調べ、曲の背景を知る	弾き易くなるコードの分散やリズムの練習法を考える	
7	成果発表 個別の目標を立てる	人に伝える、気持ちを含めることを意識して練習する	人の発表を聴き感想・意見を述べる。自分の演奏を振り返る	15	表現の振り返り まとめ	実技試験課題曲の表現方法を整理し、暗譜に取り組む	こどもの感性を高めるフレーズ感の表現に努め完全に暗譜する	
8	情景に合わせた強弱の解釈 楽譜の読み取り	教科書、それ以外の楽譜も調べ、自分に合った伴奏型を選んで練習する	曲の構成による強弱の変化を読み取り、表現に反映させ身につける					
教科書・テキスト等	「ポケットいっぱいのおうた」教育芸術社 「こどものうた200」チャイルド社 「続・こどものうた200」チャイルド社、配布資料		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント		
	定期試験	80		童謡曲のピアノ実技試験				
参考書・参考資料等	「日本の童謡200選」音楽之友社 「音楽リズム・幼児の歌」東京書籍、配布資料		平常点(態度・行動観察)	20	毎回の練習状況、レッスンへの取り組み姿勢			

対象学生	科目名	担当者	担当形態	必修・選択	単位数	開講時期		
こども学科 2年次	ピアノⅣ	隈部文・友永和恵・大石陽子	クラス分け	保育士・幼稚園教諭免許取得のための必修	1単位	後期		
科目		領域および保育内容の指導に関する科目						
施行規則に定める科目区分又は事項等		領域に関する専門的事項						
授業のテーマ 及び到達目標	授業計画							
	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
<p>童謡を内容(言葉・歌詞、音楽性、情景・情感)から深く学ぶことにより、心身の発達を促す教材であることを認識する。</p> <p>幼児の歌の伴奏としてふさわしい表現ができること、そして基本の技術が伴った演奏ができるようになる。保育現場で通用する演奏を目指し、指定されて曲を確実に暗譜できる。</p>	1	オリエンテーション ピアノⅠ～Ⅲの総括	自己の到達度を振り返り、夏休みの課題を仕上げる	よりよいレッスンカード活用法を考える	9	ト長調の分散和音 冬の歌・行事	ト長調のコードを復習しておく	アウトタクトの開始合図に慣れる
	2	ハ長調の分散和音 行事の歌	躍動感のある明るい音のための打鍵と拍子感を練習しておく	確実な暗譜、幼児を見ながら演奏できるようにする	10	付点リズムの軽快さ 季節の歌・冬	単純な音とりに終わらず譜読みをする大切さを知る	付点リズムの軽快さを自然に出せるようになる訓練法を考える
	3	二長調のコード伴奏 園生活の歌	合理的な運指を予習しておく	同名の他の曲についても調べて練習する	11	両手伴奏とベース伴奏 元気な童謡	基本コードから少し発展させたC6について調べ、練習する	オリジナル又はそれに近い前奏をつける意義を考える
	4	コードの形が変わる伴奏 園生活の歌・降園	アルペルティバスのみ、分散和音のみで伴奏してコードの復習	伴奏部分と歌のない後奏部分のバランスや奏法を研究する	12	旋律の弾き方・連打 軽快な歌	旋律のソルフェージュ的予習をしっかりとする	旋律のリズムが細かい曲では効果的に音を削る方法を探る
<p>授業の概要</p> <p>ピアノⅢまでに学んだ表現法の発展のために、音楽理論やソルフェージュも駆使して、基礎訓練を含んだ個人レッスンを行う。</p> <p>曲の構成や背景、歌詞を調べて実技練習に臨む。課題は確実に暗譜すると共に、幼児に向き合う想定に慣れるよう指導する。</p>	5	語りかける表現と音色 童謡の名曲	歌詞の内容とアーティキュレーションに気をつけて予習	フレーズをしっかりと読みとり、歌詞に合った世界観を研究する	13	6/8拍子を考える 行事の歌・お別れ会	ハ長調のコード伴奏(分散和音)を転ばないように練習する	左右の音符数、旋律と伴奏(役割)両方のバランスを考える
6	付点リズムの順次進行 秋のあそび歌	ハ長調の分散和音を整理し無駄のない右の運指を練習しておく	園児と一緒にリズムカルに弾き歌いできるようにする	14	ハ長調のベース伴奏 行事の歌・卒園	旋律とベースを別々に練習してコードを書き込む	両手伴奏による弾き歌いに発展させる	
7	音の風物詩 秋の歌	オリジナル楽譜を調べ、楽語や表記法を知る	原調二長調と園児向きのハ長調を練習し情景に合う表現を研究	15	ピアノⅣの振り返り まとめ	旋律と歌詞、プレスとフレーズを大切にしながら暗譜する	童謡の目的、効果、勉強法をまとめる	
8	連弾 アンサンブルを楽しむ	自分のパートの個人練習に責任をもって取り組む	お互いの演奏を注意深く聴き、意見を交せるよう研究する					
参考書・参考資料等	「ポケットいっぱいのおうた」教育芸術社 「こどものうた200」チャイルド社 「続・こどものうた200」チャイルド社、配布資料		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント		
	定期試験	80		童謡曲のピアノ実技試験				
	「日本の童謡200選」音楽之友社 「音楽リズム・幼児の歌」東京書籍、配布資料		平常点(態度・行動観察)	20	毎回の練習状況、レッスンへの取り組み姿勢			

対象学生	科目名	担当者	担当形態	必修・選択	単位数	開講時期		
こども学科 2年次	幼児合奏指導 I	安部 和歌葉	単独	選択	2単位	合奏Iを名称変更 開設年次変更により 平成30年度は閉講		
授業のテーマ 及び到達目標	授 業 計 画							
現場での子どもたちへの 対応、集団保育を想定し た配慮事項などを活動 を通して体験し、指導者 としての自覚と能力を身に 付けることを目指す。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	オリエンテーション * 授業と学修の進め方について	シラバスの確認 鍵盤ハーモニカの 準備	次の授業に備え る	9	カスナネットを使って * リズムアンサンブル * 音合わせ遊び		授業での学びを活かし、次の授業に 向けた個人練習をする
	2	鍵盤ハーモニカの扱い方とその特性 について	テキストの内容 を確認しておく	授業の内容を活 かして音を出し てみる	10	楽曲演奏 ～選択曲を使って① * 曲選択によるグループ作り * 担当分けと譜読み		授業での学びを活かし、次の授業に 向けた個人練習をする
	3	鍵盤ハーモニカの基本的な奏法	授業での学びを活かし、次の 授業に向けた個人練習をする		11	楽曲演奏 ～選択曲を使って② * 各パート練習		授業での学びを活かし、次の授業に 向けた個人練習をする
	4	練習パターンと楽曲演奏 ～独奏曲	授業での学びを活かし、次の 授業に向けた個人練習をする		12	楽曲演奏 ～選択曲を使って③ * 2パート練習 * ミニ発表会（グループ紹介）		授業での学びを活かし、次の授業に 向けた個人練習、グループ練習をす る
授業の概要	5	楽曲演奏 ～二重奏	授業での学びを活かし、次の 授業に向けた個人練習をする		13	楽曲演奏 ～選択曲を使って④ * ミニ発表会の反省と課題をもと に練習		授業での学びを活かし、次の授業に 向けた個人練習、グループ練習をす る
子ども達にとって大事な 協調性や共同作業を、音 楽や合奏でどのように引 き出していくのか、音 (楽)の素晴らしさやア ンサンブルの楽しさを伝 え、合奏指導する際の進 め方を学ぶ。 リード楽器（主として鍵 盤ハーモニカ）演奏を中 心に、演奏技術とともに 現場での実践を想定して 進めていく。	6	楽曲演奏 ～課題曲を使って① * 譜読み	授業での学びを活かし、次の 授業に向けた個人練習をする		14	楽曲演奏 ～選択曲を使って⑤ * グループ練習 * 発表会準備		授業での学びを活かし、次の授業に 向けた個人練習、グループ練習をす る
	7	楽曲演奏 ～課題曲を使って② * 各パート練習	授業での学びを活かし、次の 授業に向けた個人練習をする		15	楽曲演奏 まとめ * 課題曲発表会 * 選択曲のグループ発表会	発表会に向けた 個人、グループ 練習に取り組む	学修のまとめを する
	8	楽曲演奏 ～課題曲を使って③ * 2パート練習 * 合奏	授業での学びを活かし、次の 授業に向けた個人練習をする					
教科書・テキスト等	『年齢別 2～5歳児 合奏楽譜百科』（ひかりのくに）		成 績 評 価 基 準	評価方法	割合 (%)	評価のポイント		
参考書・参考資料等	* 鍵盤ハーモニカは各自で準備すること * 必要に応じて資料を配布する			定期試験	40	実技試験		
				毎時の振り返りワーク	30	内容理解の深さと自分の考え		
				平常点	30	積極的な取り組み、理解度、協調性をもつた活動態度		

対象学生	授業科目名	担当者	必修・選択	授業形態	単位数	開講時期		
こども学科 2年次	幼児合奏指導 II	山ヶ城 陽子	選択	演習	2単位	合奏IIを名称変更 開設年次変更により 平成30年度は閉講		
授業の概要	授 業 計 画							
幼児教育において使用さ れる多数の打楽器の様 々な奏法の修得。演奏 する際の各打楽器の役割、 表現方法を修得。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	オリエンテーション 授業計画等	シラバス確認	授業に備える	9	前回使用した教材曲を、効果的にアレンジしパ フォーマンスを加える	教材曲を使用 し、自分なりの アレンジを考 える	授業で学んだ事 を確認
	2	現場で使用する打楽器の様々な奏法の修得	現場で使用する 楽器を考える	授業で学んだ事 を確認	10	身近にある物を楽器にして演奏出来るように、 様々な奏法の発見	何が楽器にな るか自分なりに 考える	授業で学んだ事 を確認
	3	現場で使用する打楽器の様々な奏法、調整の仕方を 修得 ①	調整が必要な楽 器を考える	授業で学んだ事 を確認	11	身近にある物を楽器にして演奏出来るように、 様々な奏法の発見、展開していく	自分なりに新 たな奏法を考 える	授業で学んだ事 を確認
	4	現場で使用する打楽器の様々な奏法、調整の仕方を 修得 ②	調整が必要な楽 器を考える	授業で学んだ事 を確認	12	グループに分かれ、アンサンブルに取り組む	教材曲の練習	授業で学んだ事 を確認、練習
到達目標								
合奏における打楽器の効 果的な使用法を理解し発 展させる。指導者とし て、発想力、創造性を 養い、実践できるよう なる事を目標とする。	5	現場で使用する打楽器の効果的な役割を修得 ①	効果的な楽器の 使用法を考える	授業で学んだ事 を確認	13	グループに分かれ、アンサンブルに取り組み、効 果的にアレンジを加える	自分なりのア レンジを考 える	授業で学んだ事 を確認し、各 パートの役割を 理解し練習
	6	現場で使用する打楽器の効果的な役割を修得 ②	効果的な楽器の 使用法を考える	授業で学んだ事 を確認	14	グループに分かれ、アンサンブルに取り組み、パ フォーマンスを加え視覚的效果を修得	自分なりのア レンジを考 える	授業で学んだ事 を確認し、各 パートの役割を 理解し練習
	7	声を楽器にし、ボイスパーカッションでリズムの効 果的な表現法を修得	教材曲の練習	言葉でリズムの ニュアンスの変 化を感じる	15	これまで修得した事を総括し、発表する	発表曲の練習	後期で学んだ事 を確認
	8	体を楽器にし、各部位、奏法による音色の違いリ ズムの感じ方を修得	教材曲の練習	授業で学んだ事 を確認し、練習				
教科書・テキスト等	成 績 評 価 基 準	評価方法	割合 (%)	評価のポイント		履修に関する留意事項		
※必要に応じて、資料配 布 ※個人持ちの楽器や スティック、マレットを 使用		平常点	60	授業への積極的な取り組み。講義内容についての理解度。自分なりの考え。				
		期末テスト	40	実技試験				

対象学生	科目名	担当者	担当形態	必修・選択	単位数	開講時期		
こども学科 2年次	幼児合奏指導Ⅲ	安部 和歌葉	単独	選択	2単位	合奏Ⅲを名称変更 開設年次変更により 平成30年度は閉講		
授業のテーマ 及び到達目標	授 業 計 画							
	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
現場での子どもたちへの 対応、集団保育を想定し た配慮事項などを活動 を通して体験し、指導者 としての自覚と能力を身に 付けることを目指す。	1	オリエンテーション *授業と学修の進め方について	シラバスの確認 鍵盤ハーモニカの 準備	次の授業に備え る	9	アコーディオンの基本的奏法① *特性と扱い方 *音域と奏法	授業での学びを活かし、次の授業に 向けた個人練習をする	
	2	鍵盤ハーモニカの特性と基本的な奏法の確 認	独奏の候補曲を 考えておく	授業の内容を活 かして音を出し てみる	10	アコーディオンの基本的奏法② *アコーディオンの実技練習	授業での学びを活かし、次の授業に 向けた個人練習をする	
	3	鍵盤ハーモニカとアンサンブル① *独奏曲の決定 *2～4人のグループ練習 (パート決めと譜読み)	授業での学びを活かし、次の授業に 向けた個人練習をする		11	アコーディオンの基本的奏法③ *アコーディオンの実技練習	授業での学びを活かし、次の授業に 向けた個人練習をする	
	4	鍵盤ハーモニカとアンサンブル② *独奏曲の練習 *グループ練習(個人練習)	授業での学びを活かし、次の授業に 向けた個人練習をする		12	いろいろな楽器の特性① *楽器の扱い方と奏法	授業での学びを活かし、次の授業に 向けた個人練習、グループ練習をす る	
授業の概要	5	鍵盤ハーモニカとアンサンブル③ *独奏曲の個人練習 *独奏曲の伴奏合わせ *独奏曲の中間発表会 *グループ練習(個人・ペア練習)	授業での学びを活かし、次の授業に 向けた個人練習をする		13	発表会に向けて *アコーディオンの実技練習	授業での学びを活かし、次の授業に 向けた個人練習、グループ練習をす る	
子ども達にとって大事な 協調性や共同作業を、音 楽や合奏でどのように引 き出していくのか、音 (楽)の素晴らしさやア ンサンブルの楽しさを伝 え、合奏指導する際の進 め方を学ぶ。リード楽器 (鍵盤ハーモニカに加え てアコーディオン他)演 奏を中心に、演奏技術と ともに現場での実践を想 定して進めていく。	6	鍵盤ハーモニカとアンサンブル④ *独奏曲の個人練習 *独奏曲の伴奏合わせ *独奏曲の中間発表会 *グループ練習(個人・ペア練習)	授業での学びを活かし、次の授業に 向けた個人練習をする		14	*鍵盤ハーモニカ独奏曲の練習 *グループ選択曲の練習	授業での学びを活かし、次の授業に 向けた個人練習、グループ練習をす る	
	7	鍵盤ハーモニカとアンサンブル④ *独奏曲の伴奏合わせ *グループ練習 (個人・ペア・合奏練習) *グループ曲の中間発表会	授業での学びを活かし、次の授業に 向けた個人練習をする		15	まとめの発表会 第一部 独奏曲発表会 第二部 選択曲のグループ発表会	発表会に向けた 個人、グループ 練習に取り組む	学修のまとめを する
	8	鍵盤ハーモニカとアンサンブル④ *独奏曲の伴奏合わせ *グループ練習 (個人・ペア・合奏練習) *グループ曲の中間発表会	授業での学びを活かし、次の授業に 向けた個人練習をする					
教科書・テキスト等	『年齢別2～5歳児 合奏楽譜百科』(ひかりのくに)		成 績 評 価 基 準	評価方法	割合(%)	評価のポイント		
参考書・参考資料等	*鍵盤ハーモニカは各自で準備すること *必要に応じて資料を配布する			定期試験	40	実技試験(中間発表会・まとめの発表会)		
				毎時の振り返りワーク	30	内容理解の深さと自分の考え		
			平常点	30	積極的な取り組み、理解度、協調性をもった活動 態度			

対象学生	科目名	担当者	担当形態	必修・選択	単位数	開講時期		
こども学科 2年次	幼児合奏指導Ⅳ	安部 和歌葉	単独	選択	2単位	合奏Ⅳを名称変更 開設年次変更により 平成30年度は閉講		
授業のテーマ 及び到達目標	授 業 計 画							
	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
現場での子どもたちへの 対応、集団保育を想定し た配慮事項などを活動 を通して体験し、指導者 としての自覚と能力を身に 付けることを目指す。	1	オリエンテーション *授業と学修の進め方について	シラバスの確認 鍵盤ハーモニカの 準備	次の授業に備え る	9	応用指導演習① 「一つの曲を各年齢で取り組む際の指導 内容・配慮・支援の工夫」 ◆課題例示曲「さんぽ」	課題例示曲の譜 読みと個人練習 をする	授業での学びを 振り返り、気づ きを記録・整理 しておく
	2	これまでに修得した楽器や楽曲の振り返り と確認	テキストを読み 直し、振り返る	授業の内容を活 かして音を出し てみる	10	*並び方の例 *2歳児～5歳児の各段階での 取り組み方 *鼓笛隊用 *ハンドベル 他		
	3	合奏指導演習① *「指導者・伴奏者・支援者」の3人 グループを作りテキストの『2歳児向けの 曲』を分担して模擬指導	教材曲の譜読み と練習をする	授業での学びを 活かし、練習す る	11	*並び方の例 *2歳児～5歳児の各段階での 取り組み方 *鼓笛隊用 *ハンドベル 他	課題例示曲の譜 読みと個人練習 をする	授業での学びを 振り返り、気づ きを記録・整理 しておく
	4	合奏指導演習② *前回同様のグループを作り、テキスト の『3歳児向けの曲』を分担して模擬指導	教材曲の譜読み と練習をする	授業での学びを 活かし、練習す る	12	応用指導演習② 「一つの曲を各年齢で取り組む際の指導 内容・配慮・支援の工夫」 ◆課題例示曲「世界に一つだけの花」		
授業の概要	5	合奏指導演習③ *前回同様のグループを作り、テキスト の『4歳児向けの曲』を分担して模擬指導	教材曲の個人練 習	授業での学びを 振り返り、気づ きを記録・整理 しておく	13	*並び方の例 *2歳児～5歳児の各段階での 取り組み方 *鼓笛隊用 *ハンドベル 他	課題例示曲の譜 読みと個人練習 をする	授業での学びを 振り返り、気づ きを記録・整理 しておく
子ども達にとって大事な 協調性や共同作業を、音 楽や合奏でどのように引 き出していくのか、音 (楽)の素晴らしさやア ンサンブルの楽しさを伝 え、合奏指導する際の進 め方を学ぶ。 演奏技術支援、指揮、伴 奏指揮、部分指導や全体 指導など、現場での実践 を想定して進めていく。	6	合奏指導演習④ *前回同様のグループを作り、テキスト の『5歳児向けの曲』を分担して模擬指導	教材曲の個人練 習	授業での学びを 振り返り、気づ きを記録・整理 しておく	14	*並び方の例 *2歳児～5歳児の各段階での 取り組み方 *鼓笛隊用 *ハンドベル 他		
	7	合奏指導演習④ *前回同様のグループを作り、テキスト の『5歳児向けの曲』を分担して模擬指導	教材曲の個人練 習	授業での学びを 振り返り、気づ きを記録・整理 しておく	15	まとめ *振り返りをもとに、グループで 部分指導計画を作成する。	振り返りをまと めておく	学修のまとめを する
	8	合奏指導演習④ *前回同様のグループを作り、テキスト の『5歳児向けの曲』を分担して模擬指導	教材曲の個人練 習	授業での学びを 振り返り、気づ きを記録・整理 しておく				
教科書・テキスト等	『年齢別2～5歳児 合奏楽譜百科』(ひかりのくに)		成 績 評 価 基 準	評価方法	割合(%)	評価のポイント		
参考書・参考資料等	*鍵盤ハーモニカは各自で準備すること *必要に応じて資料を配布する			課題 / レポート	20	部分指導計画と取り組み状況		
				毎時の振り返りワーク	30	内容理解の深さと気づき		
			平常点	50	積極的な取り組み、理解度、協調性をもった活動 態度			

対象学生	科目名		担当者	卒業必修・選択	授業形態	単位数	開講時期	
こども学科 2年次	ハーモニーⅠ		中村 真貴	選択	演習	2単位	後期	
授業の概要	授 業 計 画							
ハーモニーⅠでは、昨今の幼児の音楽環境に対応し実践力をつけるため、コードネーム、キーボード・ハーモニーの基礎を学び、簡易伴奏付け、弾き歌いへと発展させる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	音楽の成り立ち、主要三和音と副三和音	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする。	9	歌唱曲（童謡）の分析と発展	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする。
	2	和音とコードネーム・キーボードハーモニー①スケール	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする。	10	童謡の伴奏付け/キーボードアンサンブル①伴奏してみる	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする。
	3	和音とコードネーム・キーボードハーモニー②カデンツ	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする。	11	童謡の伴奏付け/キーボードアンサンブル②調を変えて伴奏してみる	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする。
到達目標	4	和音とコードネーム・キーボードハーモニー③コード	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする。	12	童謡の伴奏付け/キーボードアンサンブル③メロディにコードをつける	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする。
本来の機能と和声の基礎を学び理解したうえで、幼児期の音楽教育によりよい影響と楽しさを与えることの出来る指導者を育成することを目標とする。	5	和音とコードネーム・キーボードハーモニー④これまでの復習	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする。	13	童謡の伴奏付け/キーボードアンサンブル④メロディの調を変えてコードをつける。	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする。
	6	コードネームによる和音の連結（属7を含む）	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする。	14	童謡の伴奏付け/キーボードアンサンブル⑤復習	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする。
	7	I. IV. V. V7による伴奏付け	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする。	15	まとめ（総復習）	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする。
	8	コードネームによる童謡の伴奏付け（片手伴奏、両手伴奏）	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする。				
教科書・テキスト等	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント		履修に関する留意事項		
		平常点（態度・行動観察）	20	受講態度				
		課題／レポート	20	課題への取り組み				
		期末テスト	60	実技試験				